

# 「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【中央区】

## 〈開催概要〉

日 時：令和4年7月23日（土） 14：00～15：30

会 場：与野本町コミュニティセンター

参加者：13名（傍聴者1名）

市出席者：市長、デジタル改革推進部

事務局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：デジタルでシンカするさいたま市

～デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進～

### 参加者との意見交換

#### ●参加者

##### ＜発言1＞

さいたまデジタル八策の「②デジタルで支える新たな市民生活へ」についてです。私はさいたま市シニアユニバーシティでスマートフォン教室の指導を担当しているのですが、そこにはWi-Fiの設備がありません。何度もWi-Fiルーターを借りに市役所に足を運んでいるのですが、是非Wi-Fi環境の設置をお願いします。

##### ＜発言2＞

10年ほど前からさいたま市シニアユニバーシティのパソコンクラブで指導をしているのですが、最近特に感じるのが、パソコンよりもスマートフォンを活用する人が多いということです。ある統計によれば、シニアの人たちの8割がスマートフォンを持っているということで、今はパソコンよりもスマートフォンの講座をやっている状況です。

そこで苦労しているのは、Wi-Fi設備がないことです。のびのびプラザ大宮や、浦和コミュニティセンターでゆったりしているのですが、その都度さいたま市にモバイルWi-Fiルーターを借りに行っています。借りに行く手間と返却する手間と、時間的なロスが多くて困っています。これからさいたまデジタル八策を進めていくため、特にデジタルデバイド解消のためには、スマートフォンの活用技術は必須になると思いますので、是非固定のWi-Fi設備の設置をお願いしたいです。

##### ＜発言3＞

意見を言う前に、学生さんもいるので、DXで世の中がどうなるかというお話を紹介します。

わかりやすいように、レンタルビデオの商売を例にお話します。ビデオは昔VHSテープを使っていたのですが、それが今、DVDやブルーレイディスクに変わってきました。これがいわゆるデジタイゼーションの世界で、規格や媒体だけが変わっていくイメージになります。

また、ビデオの貸出記録を紙に書いて管理していたものが、コンピューターを使ってシステム化して店舗が運営されていく、そういった世界がデジタイゼーションの世界にな

ります。一般的にシステム化と言われる世界になります。

これは、あくまでもDVDなどをレンタルする世界なので、媒体が変わったりしても変わらないのですが、DXが起きるとどうなるかという、AmazonとかNetflixのように、媒体を借りるのではなくて、そもそもその商売のやり方が変わってネットワークで配信されるという、新しい価値が出てくるのがこのDXが目指す姿になります。そういった観点を持って意見交換ができるといいかなと思います、DXのイメージを紹介しました。

#### <発言4>

さいたまデジタル八策を進めていくと、生活がすごく便利になっていくと聞いて期待しているのですが、その反面、先日尼崎市でUSBメモリーの紛失事件が発生し、デジタル化していく中で不安な部分が残っています。私の家族も、先日ようやくマイナンバーカードを作ったのですが、作る前までは怖いと言って逃げていました。

さいたまデジタル八策を推進していくに当たって、情報セキュリティを見える化し、学生の方でも高齢者の方でもわかりやすく、安心できるような形で表現してもらいたいと感じています。

#### <発言5>

さいたま市の地域ICTリーダに登録して10年になりました。任意団体ですが、シニア向けのパソコン教室を開いています。現在、7つの公民館で100名ほどのシニア層が学んでいます。おかげさまで、ここに来ればパソコンを楽しく使えるという声も聞いていますので、10年間やってきてよかったなと思っています。

ただ、Wi-Fi機能はもちろん公民館にはありません。拠点公民館にWi-Fiをつけようという動きはありますが、全ての公民館にWi-Fiの設置をお願いしたいです。

それから、地域ICTリーダについて、その名前が10年たってようやく浸透してきたと感じています。各区に地域ICTリーダがいますので、その地域ICTリーダの活用のきっかけを市の方でつくっていただくとありがたいなと思います。

#### <発言6>

私は、教育に関わってもう半世紀になります。私がいつも感じることは、電車の中でもバスの中でも、みんな下を向いている風景が異様だということです。最近の子どもを巡る犯罪は、見ていられないようなものが非常に多いです。世代間の交流も寸断されています。

DXを進めることは大賛成ですが、教育の分野では、デジタル化を進めるのと並行して、DXとは反対のこと、つまり心を育てないといけません。心を育てることと、ICT教育をうまくかみ合わせて、デジタル化が進んでいるけれど、豊かなまちづくりも進んでいるさいたま市にしてほしいと思います。

#### <発言7>

参加者の皆さんが具体的な施策の話をしていて、本当に素晴らしいなと思っています。Wi-Fiのことや、テーマ説明にあったQRコード等を利用する活動は、わかりやすくてよいと思います。

高校生の私が考える問題点は、電力についてです。ペーパーレス化は、紙を使わないことで資源を無駄遣いしないから環境によいという意見はわかるのですが、最近いろいろな地域で計画停電があり、電力の問題は年々増えていると思います。

今後DXを進めることによって、電力がどうしても課題になってしまうのではないのでしょうか。その課題解決のために、デジタル化を支える活動をしてほしいと思います。例えばその電力のための募金や、発電の支援など、実際に電力問題を解決するための支援ができる活動をできたらよいと思います。

### <発言8>

DXは、いろいろなものをデジタル化して、従来のやり方を形から変えて、便利でこれからの時代には欠かせないものだと考えています。市長のお話からもそう思いました。

私は、高校生がもっと活用できるツールを設けた方がよいと思っています。例えば、市内で行われるボランティア活動について、デジタル化をすることによって、もっと高校生の参加が増えると思います。デジタル化することによって参加者が多くなり、コロナ禍の今でも安全に参加することができると思います。デイサービスなど、ボランティアをすることができる場所のオンライン化をすることで、もっと今より安全に参加をすることができると思っています。

また、災害時に若者が活躍することで、より多くの人の命を助けられると考えています。例えば、どこで、どのように活動すれば人を助けられる、という情報をホームページに記載していただければ、私たちも行動できるので、そういう細かい情報をいろいろなところに掲載してほしいと考えています。

私はもっとデジタルを活用して若者が、特に私たちのような学生が活躍できるような場をもっと設けられたらなと思っています。

### <発言9>

私は、DX推進のためにはマイナンバーカードの普及率をもっと高めることが必要だと思います。世界で一番DXが進んでいると言われているデンマークでも、CPR番号やNemIDと呼ばれる日本のマイナンバーのようなものが使われていて、普及率は90%を超えているそうです。デンマークでは、さいたま市でも行おうとしている行政手続きのオンライン化はもちろん、公共料金の支払いや電子マネーへのチャージ、オンラインショッピングなど幅広く活用されているということがわかりました。

さらに、先ほどお話のあった環境についての問題ですが、デンマークでは行政からのお知らせなどは全て紙ではなくメールで受け取ることができ、環境にもとても優しいと思います。

対して、日本のマイナンバーカードの普及率は、テーマ説明にもあったとおり50%以下（R4.5.1時点）となっているので、さいたま市ではマイナンバーカードの普及率を高くするための政策を実施してほしいと思います。

例えば、学校や企業に働きかけて若い世代の普及率をもっと高くする取組が必要だと思います。普及率が日本一高い宮崎県都城市では、「都城方式」で積極的な取組が実施されているそうです。都城方式では、タブレットの使用や自宅訪問などで申請補助をされていて、とても積極的な政策を実施しているということを知りました。

あとは、マイナンバーカードの普及率を高めてマイナンバーをうまく活用すれば、新型コロナウイルスワクチン接種や給付金の支給を、今までよりもっと効率的にスピーディーに行えるのではないかと思います。

今までお話したとおり、さいたま市にはマイナンバーカードの普及率を高めるための積極的な政策を実施してほしいと思います。

### <発言10>

最近ニュースで、自治体やその委託業者による情報漏えいが話題となっていますが、DXを推進していく中で、情報端末や、委託業者を利用する機会が今まで以上に増えると思います。今まで以上に増えることや話題になったニュースなどから、情報漏えいを不安に感じる住民の方がいると思います。住民の理解がなければ、DXを推進していくことも難しくなってくると思うので、住民の不安を取り除くためにも、情報漏えいの対策などを示してほしいと思いました。

### <発言11>

話を聞いていると、DXの推進にはかなりお金がかかると思います。そうになると、今実施しているほかの政策にも影響が出ないかなと心配になりました。

ただ、DX推進に関しては賛成なので、それについておろそかになってほしくないというのが私の意見です。

### <発言12>

先ほどは、DXによる世の中の変化についてお話をしました。今度はDX推進に関して、私の考えをお話しします。

まず、さいたま市のDX推進には、スローガンをつけたらよいと思います。「市民に寄り添う市役所」ということで、市役所の都合を優先するよりも、住民の都合を優先しようというコンセプトでDXを推進したらよいのではないかと思います。

次に、私がDXの推進に求めたいことですが、日本は護送船団方式と呼ばれる、弱者の方に合わせるのが今までの方式でしたが、DXであれば、トップランナー方式と呼ばれる、最先端に行く方に合わせたシステムを設計していくのがよいのではないかと思います。具体的な設定としては、マイナンバーカードを既に持っている、ICTにたけた方が自由に使えるものにするとういのではないのでしょうか。

デジタルデバイドの問題は必ず出てきますので、対策を考えなければならないのですが、システム開発の設計にデジタルデバイドは考慮しない考え方がよいのではないかと思います。システム開発の設計の際によいコンセプトがあったとしても、デジタルデバイド対策を設計に盛り込んでいくと、そちらに引きずられてしまい、高いお金をかけても結局デジタルライゼーションレベルの残念なシステムができてしまうというのが、今までの日本のやり方だったと思いますので、ここは思い切ってトップランナーに合わせるのがよいのではないかと思います。

それでは、デジタルデバイド対策はどうするのかですが、1つ参考になるのが旅行会社の仕組みではないかと思います。旅行会社は今、ネットで予約をする方が多いと思うのですが、高齢者のようにそれに対応できない方には、カウンターを用意して店舗に来ていただいて、十二分にお話をしながら、お互い夢を見ながら旅行の計画を立てる対応をしています。市役所や区役所にも同じようにカウンターを設けて、そこで手厚くサポートをする形がよいのではないかと思います。さらに、寝たきりや足が不自由な方もいますので、そういう方には市役所の方がモバイル端末を持って出向き、人間が対応することで、デジタルデバイド対策とすることができると思います。

## ◆市長

### >>発言1

Wi-Fi環境の整備については、私たちも必要だと感じていますので、できるだけ早めに整備をしていきたいと思います。

### >>発言2

Wi-Fiの設置に関する御意見と、もう時代的にはパソコンからスマートフォンへと利用する方が変化をしてきているということで、スマートフォンの活用術を学ぶいただくことが必要ではないかという御意見をいただきました。スマートフォンで何でもできるという時代になりましたので、スマートフォンの活用という観点から、デジタルデバイド対策についてもしっかり行っていきたいと思います。

### >>発言3

### >>発言12

最初にDXのイメージについてお話をいただきましたが、次に御意見ということで、ト

ップランナーを意識したシステム開発が望ましいのではないかと、デジタルデバイド対策としては人を意識した、人中心のやり方の方が手厚くなってよいのではないかとこの御意見をいただきました。

D Xの本質的なところについては、しっかりとした仕組みをつくっていくことは非常に重要な視点だと思います。市民や職員の100%がデジタルを活用できるようになるというのは難しいと思いますので、D Xによって一定数の方はデジタル化した手続きが利用できるようになり、デジタルを利用できない方については、区役所を活用して一人ひとり丁寧に対応できるような仕組みをセットでやっていく必要があると思います。

#### >> 発言4

情報セキュリティの問題が心配だというお話がありました。他の方の御意見にもありましたが、この情報セキュリティの確保は、最も重要なところだと思っていますので、十分配慮しながら進めています。

今、行政情報については、基本的には国でつくっているネットワークを使っているので、セキュリティ対策が十分施されています。しかし、日々いろいろなハッカーたちがセキュリティを破ってくる状況ですので、その時点での最高水準でセキュリティを確保していくことを意識しながら進めていきたいと思っています。また、市民の皆さんの御理解と信頼が非常に重要だと思いますので、セキュリティについて安心できる状況になっていることをしっかりとお伝えしていきたいと思っています。

#### >> 発言5

W i - F i の設置は、公民館ではまだ基幹公民館だけですが、コミュニティセンターも含めて、段階的に整備していく方向で検討していきたいと思っています。

また、地域ICTリーダの名前が少しずつ浸透してきたので、積極的に活用していただきたいというお話をいただきました。地域ICTリーダの皆さんには、長年にわたって、地域のデジタル化に対して非常に大きな力になっていただいていると思っています。特に今後D Xを進めるに当たって、皆さんのお力は大変重要だと思いますので、引き続き御協力をお願いします。

#### >> 発言6

教育の現場でのデジタル化と、心の教育の両方が必要な中で、どのようにバランスよくやっていくのかという御意見をいただきました。

私たちも、非常に心に留めておかなければならないことだと思っています。教育委員会とさいたま市総合教育会議などで話をしていますが、教育現場の中でパソコンやプロジェクターといったデジタル機器が積極的に活用されることで、一人ひとりの子どもたちの状況が、今までよりもかなり把握しやすくなるのが、さいたま市G I G Aスクール構想のよい面ということで、私も現場の視察をさせていただいて同じように感じました。

併せて、体験をすることでリアルな五感に磨きをかけるような、心を豊かにしていくような教育のこともしっかり念頭に置いていかなければならないと思っています。さいたま市G I G Aスクール構想が進めば進むほど、そういった体験を重視することも非常に重要になってくると思っています。今、教育委員会では、認知能力だけでなく、非認知能力を高めるための教育や、心の教育をしていくためのカリキュラムを積極的に実施しています。

あくまでもこのデジタル化というのは人間がより豊かに暮らしていくための道具に過ぎません。デジタル技術が先に来るのではなく、人間を中心にバランスよく進める必要があると思いますので、教育委員会にも改めて伝えたいと思います。

#### >> 発言7

D Xについては賛成けれども、電力の問題が課題になるのではないかとこのお話をい

ただきました。

コンピューターで管理をしていくことで、それなりの電力が使われる社会になっていくのだと思います。ただもう一方で、AIなども含めて、省エネのためのいろいろな技術の発展もあり、電力が過大に使われることを抑えるための技術開発なども行われていますから、多少はその心配も少なくなってくるのだと思います。

また、世の中にはバランスがありますので、デジタル化のためだけの最適な状況をつくるのではなく、自然環境だとか、人間だとか、そういったいろいろな視点から最適な方法を見つけていかなければならないと思います。デジタル化を進めていくのと同時に、環境への配慮といった取組も併せてやっていく視点はすごく重要なことだと思います。

## >> 発言8

デジタルを活用すれば、ボランティア活動などもしやすくなるのではないかというお話もありました。

デジタル化の中心にいるのは、若い皆さんだと思っています。どのようにすれば、若い皆さんがこのデジタル化をうまく活用し、積極的に参加ができる地域社会をつくれるかが重要な課題だと思います。

さいたま市でも、今、ボランティアのマッチング制度をやっているのですが、それをどのように皆さんに伝え、活用していただくかななどを考えて、より使いやすいものにしていく必要があると思っています。

若い皆さんや高齢者の皆さんの中にも、いろいろと社会参加、社会貢献をしていただいている方はたくさんいます。そういう思いのある方々のお力をうまく活用させていただきながら、社会や地域の課題を解決できるようにしていくことが、DXの中でもすごく重要な視点だと思います。

今も高齢者を対象に、高齢者施設などでボランティア活動をするとポイントがつく、いきいきボランティアポイント事業をやっています。年間5,000円分程度を上限に、奨励金等として還元をしています。今後は高齢者だけではなく、もっといろいろな世代の皆さんがボランティアに参加しやすい状況をつくるための仕組みを、DXの中で考えていきたいと思っています。また是非いろいろな知恵を貸していただければと思います。

## >> 発言9

マイナンバーカードの普及について、積極的な政策を実施してほしいというお話をいただきました。海外では、デンマークなどマイナンバーカードの普及率がかなり高いところがありますが、日本の普及率はまだ国民の半分ぐらいという状況ですので、マイナンバーカードを持っている人だけを対象にした政策は進められません。普及率が7割ぐらいまでいかないと、逆にコストがかかってしまう状況が生まれてくる可能性もあると危惧しています。

そのようなマイナンバーカードの普及に向けて、例えば、自治会にパソコンを持って行き、カードの申請を促すなど、対策を進めているところです。

ちょうど今、マイナポイント第2弾のキャンペーンをやっていますので、この機会を活用して、私たちが進めていこうとしているデジタル社会について御理解をいただきながら、できるだけ多くの皆さんにマイナンバーカードを持っていただくように取り組んでいきたいと思っています。

## >> 発言10

情報漏えいやセキュリティの問題について御意見をいただきました。DXを進めていくには、住民の皆さんからの理解が不可欠だと思います。

現在さいたま市では、スマートシティさいたまモデルということで、浦和美園でいろいろな実証実験を行っています。健康や買物のデータなど、幾つかのデータを組み合わせな

がら、例えば、もう少しこういうことをしたら健康にいいですよ、という提案をさせていただくような仕掛けを検討し、実証実験を行いました。これは基本的にはデータを提供いただく市民の方に御理解をいただいた上で実施しています。国で進めているスーパーシティ構想なども、前提として住民の皆様の同意がないと進めることができないようになっていきます。

これから、私たちが、どのように情報セキュリティを確保し、デジタルを活用しながら、市民の皆様がより豊かに暮らしていける社会をつくっていくのか、皆様にしっかりと説明をしながら進めていくことがすごく重要だと改めて思っています。

## >> 発言11

D Xの推進には賛成だが、お金がかかってほかの政策への影響があるのではないかというお話をいただきました。

私たちがD Xの推進だけに予算を使うわけにはいきませんから、ある一定の金額の中で進めることになり、どうしても段階的になってしまいます。

ただ、D Xによって、今までのコストが大幅に縮減できる分野や、市民サービスを大幅に向上させることができる分野もありますので、そういった分野を優先しながら、段階的に進めていく形になると思います。それによって効率的な行政運営を展開できることにもなりますので、優先順位を意識しながら予算を組んでいきたいと考えています。

## ●参加者

### < 発言13 >

他の人の意見を聞いていて、年齢による配慮という意見があったのですが、高齢者に対しては使いやすく、もしデジタルが使えなかったとしても対人形式でフォローして、デジタルを使わなくても大丈夫という、ハイブリッドな対策をするのは素晴らしいと思います。

また、デジタルを若者に使いやすくすることで、高齢者と助け合えるような、支え合えるような策もするべきだと思います。若者の視野が広がれば、それだけいろいろなところを助けることができますし、デジタルを使えない人、苦手な人にとってもその方が楽だと思います。デジタル化を進めるに当たっては、支え合うハイブリッドな形式がよいと感じました。

あとは、マイナンバーや、そこから派生する協力、その他セキュリティなど、市役所と市民がお互いに信頼し合えることが必要だと思うので、そのためのイベントのような、何かがあればいいかなと思いました。

### < 発言14 >

さいたま市G I G Aスクール構想で、タブレットがみんなに配られていると思います。私には今子どもがいて、これから中学校や高校へ行くのですが、その頃には、きっと一人一台端末が当たり前になってくるのではないかと考えています。現在は、生徒一人ひとりに合わせた授業の補足というような使い方があると思うのですが、親としては、例えばはじめがあったときに、その端末で相談ができる窓口のようなものがあるとよいと思いました。きっと親にはなかなか言わないので、匿名性の守られた、気軽に相談できるアプリのような、心の逃げ道のようなものがあるとうれしいなと思いました。

あと、先ほどお話のあったボランティアについても、高校生向けに情報を端末にアップできると、情報が伝わるのも早くなると思いました。今後、さいたま市G I G Aスクール構想の一人一台端末で、勉強だけではなくて心が豊かになる使い方をしていただければと思います。

### < 発言15 >

D Xの推進にあたり、P R活動が必要だと思います。駅や公民館、サッカー場など、

様々な人が集まる場所で、「さいたま市長が挑戦しているさいたまデジタル八策はこう  
いうことです」とか、「今年はこういうことを重点化します」といった活動を、みんなが  
目にする事ができるところでPRしてほしいと思います。

DXとって、高校生でもわかる人はわかると思いますが、わからない人の方が大部分  
だと思います。デジタル化を進めるのであれば、駅やスタジアム、芸術劇場などでPR活  
動をしてほしいと思います。目につくところで活動すれば、定着するのではないでしょ  
うか。

#### <発言16>

DXはどんどん進めていただきたいし、実際に進んでいると思いますが、今私が心配し  
ているのは、デジタル化が進むにつれて、ますます情報格差が広がる一方だというこ  
とです。

ここで大事なのは、一般市民向けにデジタル教育をして、ICTへの資質を高めていく  
ことだと思うのですが、そのためにも、我々地域ICTリーダを利用してほしいです。市  
内に地域ICTリーダはたくさんいると思うのですが、実態が我々地域ICTリーダの方  
から全く見えません。お互いがわからない状態でデータベース化されているので、地  
域ICTリーダ同士の横の連携が取れない状態にあります。そういった点が活動を阻害し  
ていると感じたので、地域ICTリーダをどんどん利用するようにしてもらえれば、例  
えばマイナンバーカードの普及率が上がるような面が出てくると感じます。

#### <発言17>

現在、ワクチンに関しては4回目ということで、予約なども迅速にできているのかな  
と思います。ですが、去年は、特に高齢者はかなり厳しい状況にありました。切迫したよ  
うな形で相談に来る方もいたぐらいです。

そういった中で、私どもが担当しているパソコンクラブに来る方に対しては、サポ  
ートすることはできます。けれども、近隣にワクチン接種の予約などで困っている方が  
いるのかわかっているながら、単なる地域ICTリーダというだけの肩書で、何かお  
手伝いしましょうか、とは非常に言いにくい状況でした。

ですので、自治会や公民館レベルでそういった窓口のようなものがあると、私  
たちも非常に動きやすいです。マイナンバーについても、私たちがいろいろな  
ところで勉強していますので、マイナンバーカードをつくる手順などの教育は  
それなりに受けています。せっかくそういった教育を受けているのに、それを  
活用して他の方に手助けをしてあげていいものやら悪いものやらという気持  
ちになりますので、是非地域ICTリーダを利用していただきたいと思っ  
ています。

#### <発言18>

先ほど、高校生の方がボランティア活動についてお話をしていましたが、今、  
小学生向けのプログラミング教室を実施しています。そういった中で、中学生、  
高校生の方がボランティア活動で何人か来ますがいいですか、という問  
合せがあります。それが何人でも、ボランティアとして参加していただ  
けるのであればどんどん参加してほしいと思っています。

ただ、ボランティア活動をどうやって知ったのかと聞くと、「先生から聞いた」とい  
うだけとなります。一般に広報されているわけではないので、どこにどうい  
うボランティア活動ができ得る団体があるのかは、全く見えない状態です。  
ですから、ボランティア活動をしたいが、どうしたらよいか、ということ  
をまとめられる場があるとよいと思っています。

それから、地域ICTリーダを利用してほしいというお話がありましたが、  
活動するための方法が見つからない地域ICTリーダが多いと思います。だから、  
ある程度活動の内容が定まっているような地域ICTリーダの見学会や、自  
分の経験談などを話す事の

出来る場をつくっていただければ、初めて地域ICTリーダになった方々も、「こうやればできるのか」とか、「じゃ是非参加させていただいて、行く行くは私も独立してやりたい」といった方向性が見えてくるのではないかと考えています。

#### ◆市長

##### >> 発言13

若者と高齢者の皆さんで協力し、支え合うことで、このDXを推進してはどうかという御提案や、若者の視点をもっと広げる機会になってほしいという御意見をいただきました。これは本当に重要な視点だと思います。

どうしても、いろいろな活動自体がそれぞれ決まった年代の人ばかりになり、同じような世代の人たちだけのお付き合いになってしまっていますが、世代間の垣根を越えながら協力し合っていく方法の一つとして、デジタルでその場を作って繋げていくことは、すごく重要だと思います。私たちもそういった視点を持って進めていきたいと思っています。

##### >> 発言14

いじめの相談ができるようなタブレット端末の使い方も、さいたま市GIGAスクール構想の中に取り入れたらどうかという具体的な御意見をいただきました。教育委員会に是非、お話をしていきたいと思っています。

さいたま市では、不登校になった子どもたち等に向け、Growth（不登校等児童生徒支援センター）という名前のオンライン学習等の支援サービスを開設し、インターネットでいろいろな授業に参加をしたり、コミュニケーションを取ったりという取組を今年度からスタートしました。不登校の子どもたちがかなりの人数いるのですが、今のところ100人弱の方に登録をさせていただいています。これは、そこを通じて社会や人とつながるきっかけを作ってもらうために始めた事業になります。

デジタルには明るい部分と暗い部分の両方があるかと思いますが、いかに暗い部分を少なくしながらよいところを増やしていくかを、しっかりと考えながらやっていきたいと思っています。

##### >> 発言15

PR活動を積極的にやってほしいという御意見をいただきました。DXだけではありませんが、積極的に、しっかりとお伝えしていきたいと思っています。PRの手法についても、デジタル化が重要となってくると思いますので、様々な手法を使いながら広報していかなければならないと思います。特にこのデジタル化については、皆さんの御理解なくしてはなかなか先に進まないものですので、今後もしっかりやっていきたいと思っています。

##### >> 発言16

##### >> 発言17

##### >> 発言18

地域ICTリーダをもっと積極的に活用してはどうかというお話をいただきました。これは、大変ありがたいことですし、まさに今は、地域ICTリーダのさらなる活躍の時だと思いますので、横のつながりも含めて、皆さんの活躍の場を考えていきたいと思っています。デジタル化を進めていくプロセスでは、人と人とのコミュニケーションを取りながらできない部分もあると思いますので、皆さんのお力添えを引き続きよろしくお願い致します。

自治会、公民館レベルでICTの窓口をつくることや、地域ICTリーダ同士の交流など、具体的に御提案をいただきましたので、今後検討していきたいと思っています。

今日は、高校生の皆さんにもたくさん来ていただきました。また、地域ICTリーダとして地域の中でICTの推進をしていただいている方など、非常に多くの方々に参加をしていただいて、重要な御意見をお話していただきました。本当にありがとうございます。

皆さんからいただいた御意見には、これからDXを推進していく上で非常に重要な視点がたくさん盛り込まれていたと思います。皆さんの御意見を参考にしながら、しっかりと前に進めていければと思います。

デジタル化を進めていく中で、市民一人ひとりの生活が向上していく、豊かになることが大前提だと思います。そのために、今どんどん進んできているデジタル技術を活用することによって、より豊かに、より生活しやすく、より仕事がしやすい社会にしていかなければならないと思いますので、そのことをしっかり心に刻みながら進めていきたいと思えます。

1時間半にわたりまして貴重なお時間をつくっていただいたこと、心から感謝と御礼を申し上げます。特に若い皆さんについては、いろいろと調べて、いろいろな考えを積極的に発言していただいたことを重ねて御礼申し上げて、私からの御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

#### ■ 補足説明

「スマートシティさいたまモデルの実証実験」について

当該実証実験は令和元年度に、本市も参画する美園タウンマネジメント協会が主催で実施した「ミノソ・データミライ・プロジェクト」を指しており、現在同実証実験は実施していません。  
(都市戦略本部 未来都市推進部)

「DX推進にあたりスローガンをつけること」について

本市では、戦略的にDXを推進するため「さいたまデジタル八策」というコンセプトを打ち出し、市民サービスの向上から業務の効率化も含めて、DXを推進しています。

また、そのコンセプトに基づくより具体的な施策等を記載した「DX推進に向けた当面の重点事項」を策定しており、本市のDXに関する取組をわかりやすく内外に発信しているところです。  
(都市戦略本部 デジタル改革推進部)

「市役所と市民がお互いに信頼し合うこと」について

DXを推進するうえで、市民の方々の御理解、御協力は大変重要な要素であると認識しています。御意見にあります、マイナンバー制度における安全性等、セキュリティの観点につきましても、引き続き、様々な機会・手法にて情報発信を行うとともに、今回のような場面での御意見等も踏まえながら、本市のDXを推進していきたいと考えています。

(都市戦略本部 デジタル改革推進部)

「ボランティア情報をまとめる場」について

市民活動サポートセンターでは、市民活動団体からの依頼によるボランティア募集コーナーをはじめチラシを配架できるスペースを設けております。引き続き、多くの市民活動団体が利用していただくとともに、情報を必要とする市民の皆様への周知に努めてまいります。

また、センターでは市民活動を支援し、その活性化を図るため、市民活動団体の担い手育成のためのイベントやセミナーなども開催しております。

(市民局 市民生活部 市民協働推進課)

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。